

# 話し合い

学習活動に限らず学校活動全体においても、子どもたち同士の話し合いの機会は多々ある。より建設的、創造的な話し合いをするためには、話し合いの3つ基本要素（考える、話す、聞く）を活性化させる必要がある。

- ・子どもたち自身が感じたこと、分ったこと、発見したことなど集中して考える時間を十分取る。
- ・子どもたち一人ひとりが発言できる雰囲気と機会を作る。
- ・子どもたち同志が相手の言うことを理解しようと意識して聞くようにさせる。

そのための手法として、次のようなものがある。

## プラス的表现

「～しない」という禁止の表現は気持ちを萎縮させる。何をすることが求められているのかをよく考え、「～しない」から「～する」の肯定的言い方に言い換えての表現を意識する。

### 表現例

- 3分以上話さない → 3分以内で話す。
- うそは言わない → 本当のことを言う。
- 残り2日しかない → 2日も残っている。
- あなたの考えだと人は集まらないよ → なるほどね。でも私は、こうすれば人は集まると思う。

また、他人と意見が分かれた時、「あなたの考えは～だ」と相手の意見を否定した表現は、相手の感情的な反発を伴う。その時は、「なるほどね。でも私は～と思う」というように、まずは相手の意見を受け入れ、次に自分の意見を言うことで、感情的話し合いをさける。

## 魔法のマイク

### ねらい

話そうという気持ちにさせ、話す人は話し合いの中でひとりだけにする。

### 進め方

1. 鉛筆やラップの芯など何か手に持てる大きさのものをマイクに見立てる。
2. マイクを持った人だけが発言する。
3. 次に発言したい人は、その人からマイクを回してもらう。

### 発展

- 学年の初めに「話し合いのルールづくり」と一緒に、魔法のマイクを子どもたちで作ると、月日が経つにつれてだんだん親しみが出てくる。
- 輪になってマイクを順番に回しながら発言することも可能。輪になることでお互いの顔を見ながら話を聞くことができ、「聞く」に集中できる。なお何も言うことがない人は言わなくていいようにすれば、心理的圧迫がない。

## 話し合いのルールづくり

### ねらい

話し合いを円滑に進めるため、子どもたちの間であらかじめ話し合いのルールについて共通認識を持つ。

### 進め方

1. 学習活動の導入部分で（または学年初めに）ブレインストーミングなどをして、「話し合いのルール」をクラス全体で決める。
2. そのルールを子どもたち全員が見える場所に提示しておき、全員がいつでも意識しておけるようにする。

### ルール例

- 人の話は、最後まで聞く。
- 話しは、3分以内にする。
- 相手の意見を尊重する。
- プライバシーを守る。
- 意見には反対しても、その人自身には温かい気持ちを持つ。

### 発展

- ルールを破った人には、イエローカードをあげるなど笑える「おてつき」を決めておくと、ルールに対してあまり深刻にならずに和やかな雰囲気が保てる。
- ルールの最後に「今日の話し合いの場だけのルール」を1つ加えることも可能。

## ひとりから2人、グループ、クラス全体へ

### ねらい

最初からクラス全体の中で発言することには、ためらいやどまどいがあるもの。それを緩和させ、しかも最終的なクラスの意見は、一人ひとりの意見が反映させたものにする。また、個人から2人、グループ、全体と段階を経て活動形態が変化することで、それぞれの段階での自分の立場や価値観の変化を体験できる。

### 進め方

1. 自分一人で考える。
2. 隣の人と話し合いをして、合意した考えを作り出す。
3. そのペアは崩さず、4～6人のグループで話し合いをして、グループとして合意した考えをつくり出す。
4. グループ毎に発表して、クラス全体で話し合い、クラスとして合意した考えをつくり出す。



人権教育ファシリテーターハンドブック（国際理解教育センター発行）